

日本スポーツ産業学会第35回大会開催される

第35回大会は、2026年7月4日(土)と5日(日)に、中京大学名古屋キャンパスにて行われました。総入場者数は193名(内有料参加者数:162名[正会員/賛助会員/法人会員:80名、学生会員:27名、非会員一般:19名、非会員学生:36名])となりました。これもひとえに、大会実行委員会の皆様および関係者の方々の多大なるご尽力の賜物と感謝申し上げます。

尚、令和7年度の学会賞につきましては、『スポーツ産業学研究』第35巻第1号(2025年1月発行)から第4号(2025年10月発行)に掲載された原著論文10編、研究ノート5編、フォーラム3編の合計18編の中から選考の結果、学会賞は該当がなく、次の奨励賞2編が選出されました。7月4日の総会後に同会場にて令和7年度学会賞授与式が行われ、尾山基会長により賞状と副賞が授与されました。

○奨励賞論文(副賞:5万円)

・「引退前の活動が指導者以外の職業選択に与えた影響について:JFL退団選手サブ・エリートとノン・エリートに着目して」赤星佐和子(早稲田大学)、澤井和彦(明治大学)、小木曾 湧(東洋大学)、間野義之(びわこ成蹊スポーツ大学) 共著 [原著論文] (第35巻第1号掲載)

・「中学校運動部活動顧問のコーチングスタイルと地域移行ビジョン:北海道地方におけるソフトテニス部の調査から」小峯秋二(北翔大学)、川西正志(北翔大学)、竹田唯史(北翔大学) 共著[原著論文] (第35巻第2号掲載)



左から尾山基会長、赤星佐和子氏



左から竹田唯史氏、小峯秋二氏、川西正志氏

第14回冬季学術集会開催予告

第14回冬季学術集会は、次の予定で開催されますので、ご準備のほどよろしくお願いいたします。

○期日:2027年2月13日(土) ○会場:九州産業大学 〒813-8503 福岡市東区松香台2-3-1

もくじ

・第35回大会 各賞受賞結果について	2
・第74回理事会報告	3
・第36回総会報告	4
・事務局より	15
・『スポーツ産業学研究』原稿募集	16

第35回大会 各賞受賞結果について

今大会では次の各賞が決まり、当日夜に開催された懇親会にて審査結果が発表され、授与式が行われました。

1. アイデアコンペ

今年の「アイデアコンペ」には24件の応募があり、厳正な審査の結果選ばれた5件の発表者が当日プレゼンし、スポーツ庁関係者、学会会長、学会理事長ほかの審査を経て、次の結果となりました。

○スポーツ庁長官賞

「SANAGE OUTDOOR SPORTS PARKー猿投アドベンチャーフィールドの既存施設を、「遊び・育成・競技」のアウトドアスポーツ拠点へー」

中京大学 スポーツ科学部 草薙ゼミナールC
岩井優宗 岩村航佑 細谷好花 小林美沙

○日本スポーツ産業学会会長賞

「飲んで！巡って！熱なろまい！～食・体験・スポーツでつなぐ名古屋のバスツアー～」

桐蔭横浜大学 スポーツ科学部 齋藤ゼミC
郡司侑弥 高橋実生 土屋快吏 福井慧太

○愛知県知事賞

「LINK RELAY-Beyond the Legacy-体験型スポーツキャラバンSame Sports Experienceを全国へ」

帝京大学 経済学部 経営学科 川上ゼミナール
小林勇裕

尚、最終プレゼンまで進んだ他の2件は次の通りです。

○「「ととのう」から「行きたくなる」温浴施設へ

美容・映え・リカバリーで若者とアスリートを呼び込む Furo Wellness Lab」

中京大学 スポーツ科学部 草薙ゼミナールH
鈴木陽菜 石田ひなの 澤井絢珂 伊藤 響

○「アリーナ×ナイトキャンプ～非日常空間の創出と宿泊イベントの可能性～」

大阪経済大学 人間科学部 藤本ゼミ3

小野雅晴 宇夫心咲 白子里桜 谷田瀧心 山内勇



アイデアコンペスポーツ庁長官賞

左から小林美沙氏、細矢好花氏、吉屋拓之氏(スポーツ庁参事官、)岩井優宗氏、岩村航佑氏、草薙健太氏



アイデアコンペ会長賞

左から高橋実生氏、郡司侑弥氏、平田竹男会長、福井慧太、土屋快吏氏



愛知県知事賞

左から小林勇裕氏、杉浦美紀氏(愛知県スポーツ局長)

2. 若手優秀発表賞

若手優秀発表賞は今大会から新設され、応募者9名の抄録を審査し、3名がノミネートされました。プレゼンテーションをもとに審査した結果次が選ばれました。

○「アウェイツーリズムはどのようにすれば促進するか:Jリーグにおけるアウェイ観戦の動機づけ・阻害要因に基づく実証的検討」

一橋大学大学院経営管理研究科経営分析プログラム
石田慈温

尚、最終プレゼンまで進んだ他の2件は次の通りです。

○「ワールドトライアスロン横浜大会におけるファンエンゲージメント行動の参加形態別比較－ウェルビーイングおよびロイヤリティへの影響－」
桐蔭横浜大学大学院スポーツ科学研究科
市瀬聖愛

○「アリーナ整備が周辺地価に与える影響－沖縄サントリーアリーナを対象とした事例研究－」
中京大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士2年
篠宮鳳真



若手優秀発表賞
左から石田慈温氏、尾山 基会長

第74回理事会報告

日時：2026年7月4日(土) 11:30～12:50
場所：中京大学 名古屋キャンパス 0号館2階 ヤマテホール

出席者(敬称略)：

会 長 尾山 基、平田竹男

理事長 藤沢久美

副理事長 中村好男

理 事 芦立 訓、池田 弘(代理：佐藤雄太郎)、
勝見文一、児玉ゆう子、佐々木 卓、高橋義雄、武内紀子、松尾哲矢、三木谷浩史(代理：伊藤 洋)、水野明人(代理：村田一雄)、水野利昭、渡邊一利

監 事 栗山貴行、得田進介

オブザーバー：

運営委員 石黒えみ、遠藤華英、庄子博人、田中弘一、林 悠太、藤岡成美、藤本淳也、舟橋弘晃、古川拓也、明 世熙、吉倉秀和

スポーツ庁 吉屋拓之、経済産業省 西川奈緒

藤沢久美理事長による開会宣言後、尾山基会長、平田竹男会長、スポーツ庁の吉屋拓之参事官、経済産業

省商務・サービスグループ サービス政策課の西川奈緒課長より挨拶がなされた。

理事会の成立(出席者14人(含代理出席)、委任状提出者5人)が確認され、議事録署名人として芦立訓理事、佐々木卓理事が指名された。

議題1)第73回理事会議事録確認

第73回理事会議事録が確認され承認された。

議題2)2025年度事業報告

藤沢久美理事長の指名により、資料に基づき2025年度事業報告が高橋義雄理事(運営委員長)からなされ、承認された。

議題3)2025年度収支決算報告書

藤沢久美理事長の指名により、資料3に基づき2025年度収支決算報告が高橋義雄理事(運営委員長)からなされた。監事より監査報告書に基づき監査の結果は妥当であると報告された。2025年度収支決算報告書は承認された。

議題4)2026年度事業計画

議題5)2026年度収支予算書

藤沢久美理事長から、議題4と議題5が同時に提案された。武内紀子理事より、2026年度のスポーツビジネスジャパン開催を見送り、2027年度に開催する旨が提案された。2026年度事業計画および2026年度収支予算書は、承認された。

議題6)第14回冬季学術集会および第36回大会(2027年)の開催について(案)

藤沢久美理事長の指名により、藤本淳也運営委員(大会担当)より、次回第14回冬季学術集会を2027年2月13日(土)(於・九州産業大学 福岡市)に、第36回学会大会を2027年7月(於・亜細亜大学 東京都武蔵野市)に開催する案が提案され、承認された。学会大会実行委員長である石黒えみ運営委員からも挨拶がなされた。

議題7)その他

・藤沢久美理事長の指名により、別紙資料に基づき、高橋義雄理事(運営委員長)から会則の改定(第7条の2の新設)が提案され、承認された。

・藤沢久美理事長の指名により、藤本淳也運営委員(大会担当)から第35回大会(2026年)より新設された若手優秀発表賞の候補が提案された。応募者9名の抄録を審査し、3名がノミネートされた。プレゼンテーションをもとに審査した結果、石田慈温氏(一橋大学大学院経営管理研究科経営分析プログラム)による「アウェイツーリズムはどのようにすれば促進しうるか：Jリーグにおけるアウェイ観戦の動機づけ・阻害要因に基づく実証的検討」が選定され、承認された。
・尾山基会長より、世界スポーツ用品工業連盟(2027年4月開催)の検討会設置が提案され、承認された。
・平田竹男会長より、間野義之理事の名誉副会長への推薦が提案され、承認された。
・藤沢久美理事長より、総会にて令和7年度学会賞(奨

勲賞2編)の授与式が行われること、2027年2月13日に予定されている冬季学術集会にて、次回理事会も同時に開催されることが確認された。

藤沢久美理事長の閉会宣言により理事会を終了した。

れた。また、間野義之理事の名誉副会長就任が報告された。

議長の閉会宣言により、総会は閉会した。

第36回総会報告

日本スポーツ産業学会第35回総会は、2026年7月4日(土)18:10より中京大学にて開催された。

1. 総会の出席者

第36回総会は、正会員52人の出席、36人の委任状、合計88名により成立した。

2. 議事の運営

総会は、藤本運営委員(運営委員会大会委員長)の開会宣言および司会で開催され、平田竹男会長の挨拶がなされた。議長には正会員から藤岡成美会員が推挙され、議事が勧められた。議案及び審議概略は以下の通りである。

3. 議題

1) 2025年度事業報告

議長の指名により、高橋義雄理事(運営委員長)より資料1に基づき2025年度事業についての説明がなされ承認された。

2) 2025年度収支決算書

議長の指名により、高橋義雄理事(運営委員長)より、資料2に基づき2025年度収支決算についての説明がなされ、続いて監事より会計及び業務の監査報告がなされ、承認された。

3) 2026年度事業計画

4) 2026年度収支予算書

2026年度事業計画(案)と2026年度収支予算書(案)が一括審議された。議長の指名により、高橋義雄理事(運営委員長)より、資料3と資料4に基づき2026年度事業計画と2026年度収支予算書の説明がなされ、承認された。

5) 第14回冬季学術集会および 第36回大会(2027年)の開催について

議長の指名により、藤本淳也運営委員(大会委員長)より次回第14回冬季学術集会を2027年2月13日(於・九州産業大学)に、第36回学会大会を2027年7月(於・亜細亜大学 東京都武蔵野市)に開催する案が提案され、承認された。続いて、冬季学術集会の会場校である九州産業大学から萩原悟一先生のメッセージ代読、次回学会大会の会場校である亜細亜大学から石黒えみ先生より挨拶がなされた。

6) その他

議長の指名により、高橋義雄理事(運営委員長)より、別紙資料に基づき会則の改定が提案され、承認さ

2025 年度事業報告

2025年度の実施事業は以下の通りである。

1. 学会組織の整備・充実・運営に関する事業

(1) 会議の開催

- ・第35回総会を開催した(2025年7月12日、於・びわこ成蹊スポーツ大学)。
- ・第72回理事会を開催した(2025年7月12日、於・びわこ成蹊スポーツ大学)。
- ・第73回理事会を開催した(2026年2月15日、於・同志社大学今出川校地室町キャンパス)。
- ・運営委員会を2回開催した(2025年9月25日、2026年1月19日、於・オンライン)。

(2) 事務局機能の整備・充実

- ・ウェブサイト(<https://spo-sun.gr.jp>)を活用した情報発信を行った。
- ・会員管理システムの運用を継続中。

(3) 会員の維持・拡充

- ・会員数(2026年3月31日現在)は以下の通りであった。

*正会員580名(前年度比11名増)

*学生会員105名(前年度比2名増)

*法人会員9団体(前年度比1団体減)

(株)梓設計、APAMAN(株)、岩崎電気(株)、コトブキシーティング(株)、佐賀県、(株)ジャパン・スポーツ・マーケティング、大成建設(株)、ブリッド(株)、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)(退会:(株)竹中工務店)

*賛助会員14団体(前年度比1団体増)

(株)アシックス、(株)井上ビジネスコンサルティング、※株式会社HLBスポーツ、(株)コングレ、(株)CyberZ、公益社団法人スポーツ・健康産業推進協会、セノー(株)、(株)デサント、(株)電通、一般社団法人日本スポーツ用品工業協会、(株)HOKUETSU PLANETS、ミズノ(株)、(株)横浜国際ゴルフ倶楽部、楽天グループ(株)(※25年度入会)

2. 出版事業

(1) 学会誌

- ・学会誌『スポーツ産業学研究』を以下の通り発行した。

*第35巻第2号(2025年4月1日;原著論文3編、研究ノート2編、スポーツ政策学生会議(SPJ)2024受賞論文2編)

*第35巻第3号(2025年7月1日;フォーラム1編、原著論文2編、研究ノート2編、スポーツ政策学生会議(SPJ)2024受賞論文1編)

*第35巻第4号(2025年10月1日;フォーラム1編、原著論文2編、スポーツ関連大学の入試情報一覧(2025年度))

*第36巻第1号(2026年1月1日;原著論文3編、研究ノート3編)

*学会誌『スポーツ産業学研究』(第35巻第2号~第4号、第36巻第1号)の掲載論文を科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)にて公開した。

(2) 学会ニュース

・『学会ニュース』No.133からNo.135を、それぞれ学会誌第35巻第2号から第35巻第4号と合本して発行し、さらに学会ホームページに掲載した。No.136は学会ホームページに掲載した。

(3) 情報誌

・情報誌『Sports Business & Management Review』を以下の通り発行した。

*第34号(2025年4月1日)

*第35号(2025年7月1日)

*第36号(2025年10月1日)

*第37号(2026年1月1日)

・情報誌『Sports Business & Management Review』の版面を学会ホームページにアップした。

(4) Webジャーナル

・Webジャーナル『Sports Business Online』を刊行した。

3. 学会大会の開催

(1) 学会大会

・第34回大会(2025年7月12日(土)~13日(日)、会場・びわこ成蹊スポーツ大学、実行委員長・菅 文彦氏(大阪成蹊大学))を開催した。

総入場者数:191名(うち有料参加者183名[正会員/賛助会員/法人会員113名、学生会員30名、非会員一般14名、非会員学生26名])

*大会テーマ「学会創立35周年:Next 35 yearsのスポーツ産業と学術研究イノベーション」*基調講演「新たな熱狂の本質:SVリーグが世界に創出する価値」

大河正明氏(公益社団法人SVリーグ 代表理事チェアマン/一般社団法人ジャパンバレーボールリーグ 代表理事CEO)

*シンポジウム I

「『スポーツ産業』のこれまでとこれから」

<パネリスト>

(第1セッション)

尾山 基(日本スポーツ産業学会 会長/株式会社アシックス シニアアドバイザー)

庄子博人(同志社大学 スポーツ健康科学部 准教授)

(第2セッション)

藤沢久美（日本スポーツ産業学会 理事長／国際社会経済研究所理事長）

間野義之（日本スポーツ産業学会 理事・運営委員長／びわこ成蹊スポーツ大学教授 前学長）

岡田 明（EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社）

＜ファシリテーター＞ 吉倉 秀和（びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 准教授）

*シンポジウムⅡ

『『スポーツ産業学研究』のこれまでとこれから』

＜パネリスト＞

（第1セッション）

平田竹男（日本スポーツ産業学会 会長／早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授）

中村好男（日本スポーツ産業学会 副理事長／早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授）

（第2セッション）

舟橋弘晃（中京大学 スポーツ科学部 准教授／「スポーツ産業学研究」編集委員）

小木曾 湧（東洋大学 健康スポーツ科学部 助教／「スポーツ産業学研究」編集委員）

＜ファシリテーター＞

菅 文彦（大阪成蹊大学 経営学部 教授）

▷アイデアコンペ

○スポーツ庁長官賞

「スポーツすごろく 駅伝旅ースポーツ×ローカル線イベントによる流動人口増加ー」

麗澤大学スポーツビジネスゼミA

風間佑徠 中村友翼 曾根和真 森川 耀 清水颯太 井下佳織

○日本スポーツ産業学会会長賞

「まわれ酒蔵 千鳥足マラソン！～ 滋賀を味わい つくす 美酒と美食のアドベンチャー～」

大阪成蹊大学教員有志チーム

藤田大雪 小島大輔 青野桃子 東出加奈子 菅文彦

（2）冬季学術集会

・第13回冬季学術集会（2026年2月15日（日），於・同志社大学今出川校地室町キャンパス寒梅館 実行委員長 庄子博人准教授）を開催した。

・参加者数108名〔賛助会員：5名、正会員：45名、学生会員：10名、一般非会員4名、学生非会員：38名、その他講師等6名〕

▷シンポジウム

「プロスポーツクラブの地域ブランド戦略ー伝統産業から読み解くスポーツ産業の可能性ー」

【講演者】

林 邦彦氏（トヨタアルバルク東京 株式会社 代表取締役社長）

松島鴻太氏（スポーツコミュニケーションKYOTO 株式会社 代表取締役社長）

【クロストーク】

林 邦彦氏（トヨタアルバルク東京 株式会社 代表取締役社長）

松島鴻太氏（スポーツコミュニケーションKYOTO 株式会社 代表取締役社長）

鈴鹿可奈子氏（株式会社 聖護院ハッ橋総本店 代表取締役社長）

【モデレーター】

青井一真（フロムシェフ株式会社 代表取締役社長）

【司会】

足立名津美（京都先端科学大学 健康医療学部 健康スポーツ学科 講師）

学生交流ランチタイム企画

テーマ：未来のスポーツ産業を担う仲間とつながろう

モデレーター：山本達三（びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 教授）

棟田雅也（鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系 講師）

▷リサーチ・カンファレンス2026

研究発表数 一般：4題、若手研究者：13題、卒論：18題、ジュニア：12題

○日本スポーツ産業学会賞（若手研究者セッション：大学院生）

・萩堂李々花（中京大学大学院）

「Bリーグのスター外部性がホー

ムゲームの観戦者数に与える影響

ーBリーグオールスターゲームに着目してー」

・奨励賞 篠宮鳳真（中京大学大学院）

「アリーナ整備が周辺地域にもたらすアメニティ価値

ー沖縄サントリーアリーナを対象とした事例研究

ー」

○笹川スポーツ財団賞（卒論セッション：学部4年生）

・中居祐人（東洋大学）

「プロスポーツクラブのリブランディングによるファンの反応：

RB大宮アルディージャのケース」

・奨励賞 末盛 巧（同志社大学）

「単回の中強度有酸素運動が時間割引率に与える影響」

○笹川スポーツ財団賞（ジュニアセッション：学部1～3年生）

・町田光己（鹿屋体育大学）

「BリーグチームにおけるSNS投稿内容の

違いが観戦者のロイヤリティに及ぼす影響

ー鹿児島レブナイズを事例としてー」

・奨励賞 佐藤音寧、砂川鈴花、高草木 凜、日吉湊

太(帝京大学)
「ネーミングライツによる地域施設の活用
がJクラブのブランドイメージに与える影響
ーヴァンフォーレ甲府『おしろらんど』を事例にー」

4. セミナー等の開催

(1) スポーツビジネスジャパン(SBJ)

・ハイブリッド開催(現地開催+ライブ配信)にて「ス
ポーツビジネスジャパンコンファレン
ス2026」を、以下の日程で開催した。

会場: コングレスクエア日本橋

会期: 2026年1月22日(木)~23日(金)

テーマ: 「スポーツビジネスのレガシーとミライ」

参加申込: 総数700件

1/22(木) 現地参加: 160名 オンライン参加: 260名

1/23(金) 現地参加: 180名 オンライン参加: 280名

※全て参加費無料

(2) スポーツ政策学生会議(SPJ)2025

・Sport Policy for Japan 2025(2025年10月25日
(土)、26日(日))(於: 立教大学池袋キャンパス)を開催
した。

*参加:

- 参加チーム数: 66チーム
- 参加校数: 30校(29大学、1専門学校)
- 参加学生数: 357名

*受賞結果

○最優秀賞・スポーツ庁長官賞

・日本体育大学 日比野幹生ゼミ チームA
「スポーツシューズを捨てない時代へ」

○優秀賞(決勝進出)

・立教大学 松尾ゼミ

「音のないスポーツを通じたつながろうプロジェクト」

・高崎経済大学 田中ゼミ チームZ

「産後ケアを支えるサードプレイスの提案
ーおっかあのかと身体に寄り添うべえ!ー」

・東海大学 大津ゼミ

「認証制度による環境意識改革

ー大学スポーツにおける持続可能性の推進ー」

・椋山女学園大学 大勝ゼミ Big Wins

「女性の身体理解を促すための保健体育における月経
教育の拡充に向けて

一般女子大学生とアスリート女子大学生の比較から
ー」

・東洋大学 山下ゼミ Aチーム

「心と時間の“スキマ”を埋める

ースポーツ参加を通じた自殺率低下を目指した施策
ー」

○優秀賞

・京都橘大学 大野ゼミ チームD

「地域社会における在留外国人と日本人をつなぐス

ポーツの役割

ー スポーツを通じた多文化共生社会モデルの構築
ー」

・一橋大学 岡本ゼミ チームS

「『あるクエ』でみんなと好きを発見しよう!ー体験
活動による意欲の獲得を目指してー」

・明治大学 澤井和彦研究室 チームS

「プロスポーツの拡大に対応するキャリア支援
ーマージナルエリートのか厳実”と展望ー」

・一橋大学 岡本ゼミ チームB

「『カジスポ』で納得のか家事分担に

ー家事分担のか話し合いのか重要性への理解を深める
ー」

○特別賞

・東洋大学 竹村ゼミ 健スポ

「我が国におけるスポーツ報道におけるジェンダー
格差」

・京都先端科学大学 足立ゼミ

「『廃校 de 清掃中!!』プロジェクト

ー京都のか地域課題をスポーツを中心としたイベント
で解決したいー」

・神奈川大学 大竹ゼミ チームD

「英語力のか欠如は国家のか未来を閉ざす大きなリスク
ースポーツやコミュニケーションを通じた英語力のか
向上ー」

・東海大学 秋吉ゼミ

「Find your sport, Find your place

ーみるスポーツ診断『MINI-IKO』で大学生のか新しい
コミュニティのか場をー」

・日本体育大学 日比野幹生ゼミ Dチーム

「放置竹林×スポーツ 放置竹林資源を利用したス
ポーツ環境整備のか提案」

・武庫川女子大学 工藤ゼミ むこガール

「ーええやん! スポーツでやりひらく子ども未来ー」

・亜細亜大学 石黒ゼミ Bチーム

「アロスポ in plantsーロスプラントから生まれる新
しいメンタルヘルスケアー」

・東洋大学 山下ゼミ チームC

「『ヤングケアラー』に『寄り添う』プロジェクト

ー『気軽に』『思ったその瞬間』から繋がれるアプリ開
発ー」

・日本体育大学 日比野幹生ゼミ チームB

「大学生のか心の基地」

・東洋大学 山下ゼミ チームB

「SUMOで繋ぐ国際キャンパス

ーゲーミフィケーションを活用した多文化共生のか促
進ー」

○協賛社特別賞

◆カーブス賞

・桐蔭横浜大学 日比野暢子研究室A

「LADY, are you ready?

～30-40代女性を 運動無関心期から関心期へ移行させるプロジェクト～

・一橋大学岡本ゼミチームJ

「カフェ×ダーツによる高齢者の社会的孤立問題の改善—地域貢献と多世代交流を通じて—」

・明治大学澤井和彦研究室A

「大学による高齢者を対象とした地域貢献活動」

◆笹川スポーツ財団賞

・東海大学 大津ゼミ

「認証制度による環境意識改革—大学スポーツにおける持続可能性の推進—」

◆協栄賞

・青山学院大学 玉木ゼミ

「インクルーシブを形にする学生プロジェクト—学びを活かしたイベントづくり—」

◆PwCコンサルティング賞

・中央大学渡辺ゼミスポーツビジネス班

「プロスポーツ観戦における心理的所有感とファン行動」

◆FORUM8デジタル賞

・国土舘大学波多野ゼミ 左サイドハーフ「駅再開発に伴う多世代交流まちづくり」

◆ブカツ未来アクション 論文賞

・山口大学 西尾ゼミ Aチーム「e老人ホームをプロデュース」

◆ブカツ未来アクション プレゼンテーション賞

・富山大学 神野ゼミ

「運動不足解消のカギは“タイムスリップ”—SNS よりリアル野球盤せんまいけ—」

○学生投票結果

1. 日本体育大学 日比野幹生ゼミ チームA

「スポーツシューズを捨てない時代へ」

2. 東海大学 大津ゼミ

「認証制度による環境意識改革

—大学スポーツにおける持続可能性の推進—」

3. 立教大学 松尾ゼミ

「音のないスポーツを通じたつながろうプロジェクト」

(3) スタジアム・アリーナ視察ツアー事業

・第2回スタジアムアリーナ視察研究会

会期:2025年4月20日(日)～4月21日(月)

訪問地:ジーライオンアリーナ神戸、TOTTEI PARK

参加者:39名

(内訳:正会員:17名、賛助・法人:3名、学生会員:2名、一般(非会員):17名)

研究ディスカッション:4月21日(月)10:00～11:30

・アリーナを起点とした神戸港湾開発

・神戸ストークスの運営

・情報交換・ディスカッション

*ゲストスピーカー:

渋谷 樹(株式会社One Bright KOBE ベニューマ

ネジメントマネージャー)

畑 友洋(株式会社畑友洋建築設計事務所 代表/神戸芸術工科大学准教授)

・第3回スタジアムアリーナ視察研究会

会期:2025年12月20日(土)～12月21日(日)

訪問地:IGアリーナ(愛知国際アリーナ)

参加者:27名

(内訳:正会員:16名、学生会員:1名、一般(非会員):9名、一般(学生):1名)

研究ディスカッション:12月21日(日)10:00～11:30

・IGアリーナの運営

・名古屋ダイヤモンドドルフィンズの運営

・各立場からみたIGアリーナについて

・情報交換・ディスカッション

*ゲストスピーカー:

上村哲也(株式会社愛知国際アリーナ COO補佐/広報渉外室長)

園部祐大(名古屋ダイヤモンドドルフィンズ株式会社 カスタマーコミュニケーション事業部事業計画課長)

・第4回スタジアムアリーナ視察研究会

会期:2026年3月10日(火)～3月11日(水)

訪問地:TOYOTA ARENA TOKYO、築地プロジェクト建設予定地(全天候型約5万人収容多機能型スタジアム)、日本財団パラアリーナ、livedoor URBAN SPORTS PARK(有明アーバンスポーツパーク)

参加者:32名

(内訳:正会員:15名、学生会員:2名、一般(非会員):12名、一般(学生):3名)

(4) 専門分科会

・スポーツ産業史専門分科会に補助した。

5. 表彰事業

・第35回総会(びわこ成蹊スポーツ大学:2025年7月12日)後に同会場で学会賞授与式を行った。

○学会賞論文・・・副賞10万円

「プロスポーツクラブ経営におけるパートナーシップ形成・強化要因の質的分析:オフィシャルパートナー企業的意思決定プロセスに注目して」

山本悦史(新潟医療福祉大学)、中西純司(立命館大学)共著 [原著論文](第34巻第2号掲載)

・次年度第36回総会後に授与が予定されている学会賞の候補論文を選考した。

6. 出版企画

・「スポーツ産業学シリーズ」第二弾を企画。

2025年度中に刊行予定であったが、2026年に延期予定。

7. その他

なし

(資料2)

2025年度収支決算報告書
(2026年3月31日現在)

(収入の部)

(単位:円)

科 目		予算額	実績	実績－予算
1	入会金収入	90,000	111,000	21,000
	a 入会金収入	90,000	111,000	21,000
2	会費収入	6,670,000	6,996,000	326,000
	a 正会員会費収入	3,700,000	4,030,000	330,000
	b 学生会員会費収入	170,000	216,000	46,000
	c 法人会員会費収入	500,000	450,000	△ 50,000
	d 賛助会員会費収入	2,300,000	2,300,000	0
3	寄付金・補助金収入	0	0	0
	a 寄付金・補助金収入	0	0	0
4	販売品収入	1,830,000	1,699,000	△ 131,000
	a 掲載料・論文抜き刷り代金	1,700,000	1,545,000	△ 155,000
	b 図書等販売収入	130,000	154,000	24,000
5	学会大会収入	1,600,000	1,817,000	217,000
	a 参加費収入	900,000	1,151,000	251,000
	b 協賛金収入	300,000	200,000	△ 100,000
	c 懇親会費収入	300,000	396,000	96,000
	d その他	100,000	70,000	△ 30,000
6	冬季学術集会収入	100,000	107,000	7,000
	a 参加費収入	0	0	0
	b リサーチ・カンファレンス協賛金収入	100,000	107,000	7,000
7	事業収入	3,760,000	6,063,890	2,303,890
	a スタジアム・アリーナツアー事業収入	960,000	1,999,890	1,039,890
	b Sport Policy for Japan事業収入	2,800,000	4,064,000	1,264,000
	c その他	0	0	0
8	雑収入	800	18,659	17,859
	a 預金利息	800	18,659	17,859
	b 雑収入	0	0	0
当期収入合計		14,050,800	16,812,549	2,761,749

(支出の部)

(単位:円)

科 目		予算額	実績	実績－予算
1	学会組織の整備拡充費	1,070,000	1,247,973	177,973
	a 理事会会議費	120,000	151,139	31,139
	b 運営委員会会議費	0	0	0
	c システム関連費	950,000	1,096,834	146,834
	d 広報活動費	0	0	0
2	出版事業費	5,920,000	4,168,189	△ 1,751,811
	a 学会誌印刷・製本費	3,800,000	1,970,760	△ 1,829,240
	b 学会誌編集費	320,000	356,730	36,730
	c 情報誌製作費	1,200,000	1,420,955	220,955
	d 発送費	600,000	419,744	△ 180,256
3	学会大会開催費	1,760,000	1,017,794	△ 742,206
	a 会場費	100,000	0	△ 100,000
	b 懇親会費	300,000	250,770	△ 49,230
	c 印刷費	500,000	154,814	△ 345,186
	d 講師関係費	200,000	137,548	△ 62,452
	e 外国人講師関係費	0	0	0
	f 事業費	30,000	93,649	63,649
	g 事務局費	600,000	381,013	△ 218,987
	h 予備費	30,000	0	△ 30,000
4	冬季学術集会開催費	510,000	556,833	46,833
	a 会場費	100,000	0	△ 100,000
	b 昼食会費	50,000	12,944	△ 37,056
	c 印刷費	100,000	75,801	△ 24,199
	d 事務局経費	100,000	205,873	105,873
	e 事業費	160,000	262,215	102,215
5	事業費	4,360,000	5,422,213	1,062,213
	a スタジアム・アリーナツアー事業費	1,340,000	1,864,578	524,578
	b カンファレンス事業費	0	0	0
	c 専門分科会事業費	20,000	20,000	0
	d Sport Policy for Japan 事業費	3,000,000	3,537,635	537,635
	e その他事業費	0	0	0
6	国際交流事業費	0	0	0
	a 海外研究者招聘費	0	0	0
7	表彰事業費	160,000	105,500	△ 54,500
	a 学会賞表彰事業費	160,000	105,500	△ 54,500
8	事務局管理費	3,936,000	4,161,917	225,917
	a 交通費	200,000	66,820	△ 133,180
	b 消耗品費	200,000	267,837	67,837
	c 通信費	106,000	164,434	58,434
	d 人件費	3,400,000	3,638,350	238,350
	e 雑費	30,000	24,476	△ 5,524
9	予備費	0	0	0
	a 予備費	0	0	0
	b 特別プロジェクト研究費	0	0	0
当期支出合計		17,716,000	16,680,419	△ 1,035,581
当期収支差額		△ 3,665,200	132,130	3,797,330
前期繰越金			10,133,269	
次期繰越金			10,265,399	

注1)

注2)

注3)

注4)

※支払タイミングにより翌期の支払いとなり、当期に計上されていない支出は以下の通りです

注1) 2-a 学会誌印刷・製本費	715,094
注2) 2-d 発送費	118,303
注3) 5-d SPJ事業費	34,166

合計	867,563
----	---------

注4) 未払金867,563円を入れた場合の次期繰越金は9,397,836円

2026 年度事業計画

1. 学会組織の整備・充実・運営

(1) 会議の開催

- ・総会(第36回)
- ・理事会(第74・第75回)
- ・運営委員会(2～3回の予定)

(2) 学会の広報

- ・ウェブサイト(<https://spo-sun.gr.jp/>)の活用・充実
- ・その他の広報活動

(3) 事務機能の強化

- ・システムの更新
- [参考] 正会員580名、学生会員105名、法人会員9団体、賛助会員14団体
(2026年3月末現在)

5. 表彰事業

- ・学会賞の表彰
- ・学会賞候補論文の選考

6. その他

- ・産学連携事業の推進
- ・他団体主催イベントへの後援・協力

2. 機関誌、会報等の発行

(1) 学会誌の発行

- ・『スポーツ産業学研究』(第36巻第2号～第4号、第37巻第1号)
- ・『スポーツ産業学研究』掲載論文を「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)にて公開(第36巻第2号～第4号、第37巻第1号)

(2) 情報誌の発行・Webジャーナルの発行

- ・『Sports Business & Management Review』(No.38～No.41)
- ・『Sports Business Online』

(3) 学会ニュースNo.137, No.138, No.139, No.140を学会HPにて公開

3. 学会大会の開催

(1) 学会大会

- ・第35回学会大会(2026年7月4日(土)～5日(日)会場・中京大学 名古屋キャンパス)

(2) 冬季学術集会

- ・第14回冬季学術集会(2027年2月予定)

4. 研究会、講演会、公開講座等の開催

(1) スポーツ政策学生会議(SPJ)の開催

(2) スポーツビジネスジャパン(SBJ)の開催

(3) スタジアム・アリーナ視察ツアー事業の開催

上半期・下半期に1回ずつ視察ツアーを開催予定(視察先検討中)。

(4) 出版企画

「スポーツ産業学シリーズ」第二弾を2025年度に企画、2026年度に出版予定。
今後のシリーズ化を出版社と交渉予定。

(5) 専門分科会への補助

(資料4)

2026年度収支予算書
(2026年4月1日～2027年3月31日)

(収入の部)

(単位：円)

科 目		予算額	前年度予算額	差 額
1	入会金収入	105,000	90,000	15,000
	a 入会金収入	105,000	90,000	15,000
2	会費収入	6,720,000	6,670,000	50,000
	a 正会員会費収入	3,700,000	3,700,000	0
	b 学生会員会費収入	170,000	170,000	0
	c 法人会員会費収入	450,000	500,000	△ 50,000
	d 賛助会員会費収入	2,400,000	2,300,000	100,000
3	寄付金・補助金収入	0	0	0
	a 寄付金・補助金収入	0	0	0
4	販売品収入	1,830,000	1,830,000	0
	a 掲載料・論文抜き刷り代金	1,700,000	1,700,000	0
	b 図書等販売収入	130,000	130,000	0
5	学会大会収入	1,500,000	1,600,000	△ 100,000
	a 参加費収入	900,000	900,000	0
	b 協賛金収入	200,000	300,000	△ 100,000
	c 懇親会費収入	300,000	300,000	0
	d その他	100,000	100,000	0
6	冬季学術集会収入	100,000	100,000	0
	a 参加費	0	0	0
	b リサーチ・カンファレンス協賛金収入	100,000	100,000	0
7	事業収入	3,800,000	3,760,000	40,000
	a スタジアム・アリーナツアー事業収入	1,000,000	960,000	40,000
	b Sport Policy for Japan事業収入	2,800,000	2,800,000	0
	c その他	0	0	0
8	雑収入	8,000	800	7,200
	a 預金利息	8,000	800	7,200
	b 雑収入	0	0	0
収入合計		14,063,000	14,050,800	12,200

(支出の部)

(単位：円)

科 目		予算額	前年度予算額	差 額
1	学会組織の整備拡充費	1,110,000	1,070,000	40,000
	a 理事会会議費	160,000	120,000	40,000
	b 運営委員会会議費	0	0	0
	c システム関連費	950,000	950,000	0
	d 広報活動費	0	0	0
2	出版事業費	5,720,000	5,920,000	△ 200,000
	a 学会誌印刷・製本費	3,400,000	3,800,000	△ 400,000
	b 学会誌編集費	320,000	320,000	0
	c 情報誌製作費	1,400,000	1,200,000	200,000
	d 発送費	600,000	600,000	0
3	学会大会開催費	1,500,000	1,760,000	△ 260,000
	a 会場費	100,000	100,000	0
	b 懇親会費	300,000	300,000	0
	c 印刷費	250,000	500,000	△ 250,000
	d 講師関係費	200,000	200,000	0
	e 外国人講師関係費	0	0	0
	f 事業費	150,000	30,000	120,000
	g 事務局費	400,000	600,000	△ 200,000
	h 予備費	100,000	30,000	70,000
4	冬季学術集会開催費	510,000	510,000	0
	a 会場費	100,000	100,000	0
	b 昼食会費	50,000	50,000	0
	c 印刷費	100,000	100,000	0
	d 事務局経費	100,000	100,000	0
	e 事業費	160,000	160,000	0
5	事業費	4,020,000	4,360,000	△ 340,000
	a スタジアム・アリーナツアー事業費	1,000,000	1,340,000	△ 340,000
	b カンファレンス事業費	0	0	0
	c 専門分科会事業費	20,000	20,000	0
	d Sport Policy for Japan事業費	3,000,000	3,000,000	0
	e その他事業費	0	0	0
6	国際交流事業費	0	0	0
	a 海外研究者招聘費	0	0	0
7	表彰事業費	160,000	160,000	0
	a 学会賞表彰事業費	160,000	160,000	0
8	事務局費（管理費）	3,986,000	3,936,000	50,000
	a 交通費	200,000	200,000	0
	b 消耗品費	250,000	200,000	50,000
	c 通信費	106,000	106,000	0
	d 人件費	3,400,000	3,400,000	0
	e 雑費	30,000	30,000	0
9	予備費	0	0	0
	a 予備費	0	0	0
	b 特別プロジェクト研究費	0	0	0
支出合計		17,006,000	17,716,000	△ 710,000
収支差額		△ 2,943,000	△ 3,665,200	722,200

(別紙資料)

会則の改定について

日本スポーツ産業学会会則の一部改定を以下の通り提案いたします。

改定後	改定前
第2章 会員 (会費および義務) 第7条 会員は、次の会費を納入しなければならない。ただし、名誉会長・名誉会員（顧問を含む）は、会費の納入を要しないものとする。 (1)正会員 年額7,000円 (2)法人会員 年額5万円 (3)賛助会員 年額一口（10万円）以上 (4)学生会員 年額2,000円 2 会員は、本会会則やその他の規程及び総会等決議機関の決定を遵守しなければならない。 付則 9. この会則は、令和8年7月4日より施行する。	第2章 会員 (会費) 第7条 会員は、次の会費を納入しなければならない。ただし、名誉会長・名誉会員（顧問を含む）は、会費の納入を要しないものとする。 (1)正会員 年額7,000円 (2)法人会員 年額5万円 (3)賛助会員 年額一口（10万円）以上 (4)学生会員 年額2,000円 (新設)

事務局より

〈シクミネットについて〉

2021年4月より導入したシクミネット(<https://shikuminet.com/>)の継続にあたりましては、多大なるご協力を賜り心より御礼申し上げます。

正会員、学生会員の皆様には以下の内容について当該システム上の「マイページ」よりお手続きをお願いします。

- ・登録情報の編集
- ・年会費の支払い
- ・当学会主催イベントへの申し込み、入金

尚、年会費の支払い方法につきましては変更可能ですので、ご都合の良いお支払方法をご選択ください。決済方法はいつでも変更可能ですが、マイページ「ご請求・お支払い情報」で「決済中」となっているご請求がある場合は、このご請求の決済完了後から、変更可能となります。

クレジットカード決済をご選択されている場合、マイページの「ご請求・お支払い情報」ページ中、「お支払い履歴」一覧の一番右にあります「領収書」より、領収書の発行が可能です。こちらをご活用ください。但しこの場合、領収書の発行者が「しゅくみねっと株式会社」になります。学会発行の領収書が必要な場合は事務局までご連絡ください。

まだログインお手続きがお済でない会員の皆様は、早めのお手続きをお願いいたします。
本学会の銀行またはゆうちょ口座へ直接お振込みをご希望の方は、事務局までご一報ください。

その他ご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

- ・システムに関して：シクミネット info-jssi10023@shukuminet.com
- ・その他：日本スポーツ産業学会事務局 jssi@spo-sun.gr.jp

〈学会事務局〉

現在事務局はリモートワーク中ですのでお問い合わせ等ございましたら事務局宛(jssi@spo-sun.gr.jp)にメールでご連絡くださいますようお願いいたします。

〈新会員紹介のお願い〉

日本スポーツ産業学会の会員数は、現在、個人会員が約700名、賛助会員が14団体、法人会員が9団体です。
本学会は、設立理念にもありますように、産業界、学界、官界と幅広い分野から会員を募り学会活動を進めています。
学会の趣旨に賛同し、ともに研究を進める仲間を募っています。ご紹介頂ければ幸いです。

- ・個人会員：学会HPご入会のご案内 <https://jssi.shikuminet.jp/>
「会員登録申請」よりお手続き願います。

- ・法人会員・賛助会員：事務局(jssi@spo-sun.gr.jp)までご連絡願います。

「スポーツ産業学研究」原稿募集

「スポーツ産業学研究」の原稿を募集します。奮って寄稿されるようご案内致します。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 原稿の種類 | フォーラム、原著論文(総合研究、理論研究、事例研究、調査研究)
研究ノート、書評、アゴラなど。 |
| 2. 原稿の採否 | 編集委員会により投稿分類の妥当性および査読の可否を判定した後に
査読委員が選ばれ査読が依頼される。その査読結果をもとに編集委員会は
原稿の採否を決定し、その結果を投稿者に通知する。 |
| 3. 提出する原稿 | メールの添付ファイル(ワードかPDF、図表はエクセル可・PPT可)で送付のこと。 |
| 4. 論文の送付先 | 〒202-0021 東京都西東京市東伏見2丁目7番5号
早稲田大学75-2 体育教室棟301号室
早稲田大学スポーツビジネス研究所内
日本スポーツ産業学会編集委員会 |
| 5. 執筆方法 | 「スポーツ産業学研究」投稿規定(学会ホームページ)を参照。 |

「学会ニュースNo139」

発行日:2026年10月1日

発行者:日本スポーツ産業学会理事長 藤沢 久美

編集者:児玉ゆう子, 中村 好男, 元 晶煜, 岡 浩一朗

小木曾 湧, 梶川 裕矢, 田中 克昌, 萩原 悟一

藤田 康範, 藤本 淳也, 舟橋 弘晃

金子佐知子(事務局)

事務局:〒202-0021

東京都西東京市東伏見2丁目7番5号

早稲田大学75-2 体育教室棟301号室

早稲田大学スポーツビジネス研究所内

日本スポーツ産業学会事務局

TEL:042-461-1241

E-mail:jssi@spo-sun.gr.jp

<https://spo-sun.gr.jp>